

人権啓発推進指導員のコーナー

「差別に気づけない自分」に気づく

車いすユーザーと二足歩行者の立場が逆転した架空の世界を体験するプログラム「バリアフルレストラン」が開催されたという記事を興味深く読んだ。お客も従業員も車いすユーザーなので、お店の天井は低く、床はつるつる、車いすユーザーに必要な椅子は置かれていない。車いすに合わせてテーブルは低く、お皿なども車いすから取りやすい位置に置いてある。二足歩行の人が入店しようすると、戸惑いと哀れみの表情を浮かべたスタッフから「車いすはお持ちですか？ 介助者の方はいらっしゃいますか？」と声をかけられる。低い入口から腰をかがめて入店し、中腰で立ったまま食事をしなくてはならない。「一人でできますか？ お手伝いしましょうか？」と障がい者として気遣われる。車いすユーザーにとっては何の困りごとにも感じない快適な環境の中で、二足歩行の人達が感じる様々な不便や居心地の悪さ。主催者は、体験を通して多数派中心の社会によって生み出される「障がい」に気づき、「障がいとは何か」について、一緒に考え続けて欲しいと訴えている。

自分の周りに差別はないと思うのは、実は少数派の人が感じるしんどい状況や差別に、多数派の自分が気づけないからかも知れない。これは、障がい者の問題に限らず、同和問題、高齢者や外国人、性的マイノリティの問題等全ての人権問題に共通することだろう。「バリアフルレストラン」の記事は、人権問題によっては自分が差別に気づきにくい立場にいることを自覚し、様々な人権について意識的に学んでいく姿勢が必要であることを教えてくれた。

(岩村)

ある外科医の話

【お父さんと息子が交通事故で病院に運ばれました。幸運にも天才外科医との呼び声の高い、その病院の院長が直々に手術をすることになりました。助手や看護師を従えて手術台に入り、手術台に寝かされた子どもを見るなり、院長はこう言いました。『この子は私の息子です』と】これはどういうことでしょうか？

院長を男性だと認識した方は、混乱したのではないのでしょうか？ 院長が「男性」だとすると、母親が院長という発想がなかなか出てきません。これは、社会は男性中心であるというジェンダーに関するステレオタイプを表しています。2018年にある大学の一般入試にて、女子受験者の点数を一律に減点し、合格者数を調整していたことが明らかになりました。このようなことが起こった背景には、女性医師が結婚や出産で離職すれば、病院の医師が不足する恐れがあることがあったとされています。

問題なのは離職率が未だに男性と比べて高いことを、社会（職場）の問題とせず女性の問題だと考えてしまっていることです。問題の本質をすり替えることなく、現在の社会の構造的な問題に目を向け、誰もが生きやすい社会を皆で作っていく必要があると考えます。

ジェンダーギャップ指数の上位の国から、女性が結婚や出産しても働きやすい環境づくりをどのように行っているのか学ぶことが必要かもしれません。

(久保)

ココロンセンター ライブラリー 新刊紹介！

人権問題に関する書籍、まんが、絵本、DVDの貸出を行っています。ぜひ、ご利用ください。

「はじめて学ぶLGBT 基礎からトレンドまで」

「LGBTってそもそもどういう意味だろう？」「教育現場や法の支援は進んでいるのかな？」「カミングアウトがあったら、どう受け止めるのがよいのだろう？」……

ジェンダー・セクシュアリティ研究者である筆者が、学生の疑問に答える形で、LGBTにまつわる基礎的な知識をわかりやすく解説していきます。イラストやグラフも多く、LGBTについて初めて学ぶ方やある程度のことを知っているけどもう少しいねいに考えてみたいという方の入門書として最適です。



著者：石田 仁 発行所：ナツメ社

「壁をこえて～ハンセン病問題・菊池恵楓園の歴史に学ぶ～(40分)」

ハンセン病という病気への無知や無関心がその差別を形づくってきました。この作品では、隔離政策による差別の現実を当時の写真や元患者のインタビューを交えて、丁寧に描いています。感染症に対する恐怖から差別や偏見につながることを、今、私たちは目の当たりにしています。ハンセン病問題を過去のことにせず、私たちひとりひとりが自分自身の問題として捉えることにより、さまざまな人権の問題についても正しく向き合っていくことができるのではないのでしょうか。壁は、わたしたち自身でこえていかなくては……。



制作・著作：合志市 協力：国立療養所恵楓園、同人所者自治会 字幕付き

人権擁護委員が表彰されました

多年にわたって人権擁護活動にご尽力いただいた人権擁護委員が令和3年5月21日の「福岡県人権擁護委員連合会総会」の日に表彰を受けられました。

法務省人権擁護局長表彰 **もり 森 かわ 川 はるひ 晴 様** (西区)

「ココロンセンターだより」No.85

発行：令和3年9月 福岡市人権啓発センター

〒810-0073 福岡市中央区舞鶴2丁目5番1号健康づくりサポートセンター(あいれふ)8階 TEL092(717)1237 FAX092(724)5162 E-mail:jinkenkeihatsu.CAB@city.fukuoka.lg.jp

ココロンセンター 福岡

検索



TEL092(717)1247(人権啓発相談室では人権問題に関する相談及び、研修会や学習内容に関する相談を受け付けています)

法務省委託事業

令和3年9月(秋季号) No.85 福岡市人権啓発センター

CONTENTS「主な内容」

- ハートフルフェスタ(西鉄ホール).....1P
- ハートフルフェスタ(ゼファ会場).....2P
- 人権尊重推進協議会.....3P
- 人権啓発推進指導員のコーナー、おすすめ作品の紹介.....4P



人権啓発フェスティバル

ハートフルフェスタ 福岡

10月24日(日)入場無料 心ふれあい、気持ちつながる



2021

西鉄ホール会場(ソラリアステージ6F)

各定員230名

第1部

映画上映「今日も明日も負け犬。」

【事前申込制】

監督／西山夏実

上映時間／11:20～12:10

病に絶望した女子生徒が同級生とともに青春を取り戻す福岡市の高校生、西山夏実さんが自ら映画監督として制作した、起立性調節障害である自身の体験を基にした映画。



パネルディスカッション

【事前申込制・オンライン限定公開あり】

(手話通訳・要約筆記あり)

時間／12:20～13:10

出演者／春名風花(声優)／かずえちゃん(YouTuber)

テーマ／心をつなぐために、私たちにできること

M C／斉藤ふみ(タレント、ラジオパーソナリティ)



春名風花さん



かずえちゃん

リモート出演



斉藤ふみさん

第2部

サヘル・ローズさん 講演

【事前申込制・オンライン限定公開あり】

(手話通訳・要約筆記あり)

時間／14:00～15:30

テーマ／「出会いこそ生きる力

～外国にルーツを持つ子どもたちへ愛をこめて～」



Photo by SOZO

イランでの孤児としての経験や義母と来日後の差別・いじめ、児童養護施設の子どもの支援を行っている思いなどを話していただきます。

【講師プロフィール】

イランの孤児院で過ごし、8歳で養母とともに来日。ミラノ国際映画祭最優秀主演女優賞を受賞するなど、映画や舞台俳優として活動。芸能活動以外にも、国際人権NGOの「すべての子どもに家庭を」の活動で親善大使を務めている。アメリカで人権活動家賞を受賞。孤児・ストリートチルドレンなど子どもたちと共に生きていくことが目標。

演女優賞を受賞するなど、映画や舞台俳優として活動。芸能活動以外にも、国際人権NGOの「すべての子どもに家庭を」の活動で親善大使を務めている。アメリカで人権活動家賞を受賞。孤児・ストリートチルドレンなど子どもたちと共に生きていくことが目標。

【西鉄ホールイベント申込】いずれも定員230名。申し込み多数の場合、抽選となります。抽選に外れた方には視聴用URLをお送りいたします。詳細は、福岡市人権啓発センターホームページをご覧ください。

●人権に関する団体の活動紹介 展示や活動紹介動画上映。

一般財団法人カンボジア地雷撤去キャンペーン／公益社団法人 福岡県人権研究所／
治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟福岡県本部／福岡県いのちを守る会／
福岡市企業同和問題推進協議会／福岡手話の会／福岡人権擁護委員協議会（五十音順）

●ライブペインティング&ワークショップ（アトリエブラヴォ）

ライブペインティング

障がい福祉サービス事業所【JOY 倶楽部】「アトリエブラヴォ」の
アーティストがライブペインティングを行います。来場者の方も
ライブペインティングにご参加いただけます。

※希望者多数の場合は事前整理券対応とさせていただきます。

ワークショップ

「アトリエブラヴォ」の作品に色を塗って自分の作品を制作します。

世界に一つだけのアートを作りませんか？

※1回6名参加 ※希望者多数の場合は事前整理券対応とさせていただきます。



ライブペインティング



缶バッチ



エコバック

●人権マンガパネル展

誰の身にも
起こりうる
人権問題の
パネル展を
開催します。



●アダプテッドスポーツ体験コーナー

障がい者や高齢者、子ども、女性等が
参加できるように修正、あるいは新た
に創られた運動やスポーツ。
普段体験できないスポーツ体験をして
みませんか？



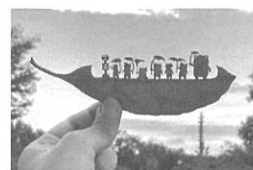
ブラインドサッカー PK



バランス歩き

リト@葉っぱ切り絵展

葉っぱ切り絵アーティスト、リト@葉っぱ切り絵さ
んの作品展示。自身のADHDによる偏った集中力やこ
だわりを前向きに生かすために独学で制作。1枚の
葉っぱの上に広がる優しく温かな物語が世界各国で
感動を呼び、ファンを広げている。



10月23日（土） 人権に関する団体主催の講演会開催 入場無料

10:30～12:00／語りの会「ことのは」『物語の中の人権』

13:30～12:00／はかたいのちを大切に作る会『円ブリオいきいき講座 胎児は社会の一員です。』

15:30～17:00／ふくおか当事者研究会

『もっと愛アイし合いたい権利「対話で折り合う」オープン・ダイアログの実践と実演』

【主催】ハートフルフェスタ実行委員会（NPO法人福岡市障害者関係団体協議会／公益財団法人福岡よかトピア
国際交流財団／公益社団法人福岡市老人クラブ連合会／福岡市七区男女共同参画協議会／福岡市民生委員児童委
員協議会／福岡人権擁護委員協議会／ハートフルフェスタ福岡企画委員会／福岡法務局／福岡市）

【お問い合わせ・事務局】福岡市人権啓発センター TEL：092-717-1237 FAX：092-724-5162

詳しくは、9月1日以降に人権啓発センターのホームページに掲載予定です。
『ハートフル2021 福岡』で検索！！

「明るく、楽しく、自分たちの身の回りからできることを」

入部校区人権尊重推進協議会

入部校区は、50数年前から人権について学ぶことを大切にして、「差別のない明るく住みよい地域づくり」
に取り組んできました。人権を大切にしようという息の長い地道な取り組みにより、地域の人々の温かいつ
ながりを作ってきたことが校区の自慢の一つです。

人権を大切にする長い歴史を受けつぐ形で、入部校区人権尊重推進協議会は、1992年（平成4年）に発足し、
支部交流会、指導者研修会、現地研修会、人権シンポジウム・人権フェスタ、構成団体機関との交流会など
に積極的に取り組んできました。入部人尊協のモットーは、「明るく、楽しく、自分たちの身の回りからで
きることをやっいていこう」です。そのために、全ての取り組みで、「自分たちの言葉で語り合うこと、住民
がつながり合うこと」を大切にしてきました。

町別人権学習会は入部校区の貴重な財産です。人権を尊重する町内づくりのため、町民のつながりを大切
にしながら、町民による自主的な学びの場として続けてきました。11の町内の人権推進委員と協力委員が
中心となり、年1～3回実施します。2019年度は、障がい者や高齢者、子どもの人権、災害時の人権、ハ
ラスメントの問題などについて、講師を招いて、落語を通して、映画を視聴して等、町内の特徴に応じて工
夫しながら取り組みました。その際、地域で活動している障がい者支援施設やフリースクール、子ども食堂、
消防分団、中学校などからも講師を招くことで、地域のつながりづくりにもなっています。

秋には、「人権フェスタ」を開催しています。以前は多くの住民や中学生がパネラーとなり、身近な人権
について考える「人権シンポジウム」を開催していました。2006年度か
らさらに住民参加を進めようと「人権フェスタ」に変更し、現在は、い
るべ保育園、入部小学校、金武中学校吹奏楽部、早良厚生園、なごみの
家などがステージ発表を行い、会場には、11町内の活動紹介（町内自慢）、
小学生の五行詩、修学旅行平和新聞、中学生の人権ポスター、保育園児
の作品など見ごたえのある展示がされるという形になりました。毎年多
くの方が参加し地域住民の交流を図りつながりをつくるイベントとなっ
ています。

昨年は、新型コロナウイルス感染症の影響で、ステージ発表ができませんでした。そこで、公民館で例年
の展示に加え、人権に関するお勧めの本やいじめに関する著名人のメッセージを展示したり、校区の風景写
真のスライド上映を行ったりして、ゆっくりと鑑賞してもらいました。来
場者には入部小学校の子ども達が作ったシトラスリボンや金武中の生徒が
デザインしたエコバックを配布し大変喜ばれました。「どの世代も楽しく生
活できるステキな入部です。」などうれしい感想がたくさん寄せられました。

これからも、ラジオ体操で出会った人、公民館に来てくれた人など自分
の身近にいる人に積極的に声をかけて、自分の言葉でやさしく人権につ
いて語らいあっていきたいと思ひます。新型コロナウイルス感染症が落ち着
いたら「会えなくて、集まれなくて寂しかったね。」という気持ちでいろ
んな取り組みをスタートさせ、再度人と人とのつながりを築いていきたいと考えています。



来場者からのメッセージ



こころのオルゴールのマンガを制作しました

福岡市がお贈りする「こころのオルゴール」は、
みなさんに人権を身近に考えてもらう5分間のラジオ番組です。
令和2年度に放送した作品の中から3作品を選び、
そのシナリオをもとに漫画を制作いたしました。
人権啓発センター ホームページで公開しています。
ぜひ、ご覧ください。